

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 参番館 )

事業所番号	0671700284		
法人名	医療法人 敬愛会		
事業所名	グループホームさくらんぼ		
所在地	山形県東根市大字野田1924番地		
自己評価作成日	令和 3年 8月 14日	開設年月日	平成 16年 4月 1日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域に根ざした愛られるグループホームを目指し「大切な人に笑顔と安らぎを」~その人らしい生き活きとした暮らしを支えます~の法人の理念のもと、一人ひとりの能力・特性を見極めて残存能力を生かした支援支援、ご希望があればお看取りまで支え、最期まで自分らしく過ごせる第二の我が家となるよう心がけています。また、入居者様、家族様とのコミュニケーションを多くとるよう心がけ、思いに寄り添い、信頼関係を大切にしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 3年 9月 28日	評価結果決定日	令和 3年 10月 14日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※1ユニット目に記載

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を基本にグループホームとしての役割を反映した独自の理念がある。各ユニットの玄関と事務所内に掲示のほか職員一人ひとりが常に身に付けているネームプレートに入れて持ち歩き理念に対する意識を高めるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接の小学校から案内をいただき運動会などを見学したり、地区行事に参加していた。また施設行事の夏祭りは、地区の方を招待したり交流を図っていたが現在はコロナ禍のため地域との交流が図れていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の貢献として、ボランティアや実習生の受け入れを積極的に行い、認知症に対する理解を深めていただけようとしていたが、現在は実習生のみ受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍において、密回避の観点から、運営推進会議の委員全員へ書面にて報告行っている。質問等あった際はその都度対応し、次回の報告の際書面にて質疑応答を入れるようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の際に定期的に情報交換など行っていたが、現在は書面にて報告する際担当の方と必ず顔を合わせるようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	夜間以外は玄関の鍵は常に開放しており、自由に外出できるようになっている。また身体拘束についての研修会を開催したり、委員会を設置し身体拘束についての正しい理解に努めている。束縛のないケアを実践している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての正しい理解を学ぶため、研修会の開催や、委員会活動を通じて定期的に話し合いの機会を持ち、虐待がないよう啓蒙に努めている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度については理解不足な所があるため、継続的に学習する機会を持ち、理解していく必要がある。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、十分な時間をとり説明を行うようにし、随時質問等ないか確認しながら契約の締結を行っている。解約の際も同様に十分に話をし同意の上で行っている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口や各ユニットの玄関に意見箱を設置している。その他にも随時意見や要望を伺っている。年1回利用者様と家族様にアンケートを実施し、頂いた意見を職員全員が共有し、問題点などは解決できるよう検討を行っている。			
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2か月に1回全体会議とユニット会を行い、職員の意見が反映する体制を作り話し合いの場を設けている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所全体で働きやすい職場環境の構築に取り組んでいる。「山形いきいき子育て応援企業」の認定と、子育てサポート企画として「プラチナくるみんマーク」を取得している。また研修会の参加費や資格取得費用を事業所で一部負担している。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の全体研修や、部署ごとに年間計画を立て、研修会を設けている。また外部の研修にも参加しやすいよう勤務の配慮もしている。採用時には、中途採用の職員も含め新人研修を行い、理解を深めてもらっている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム協会に加入し、定期的な研修会に参加し他事業所の方と交流を図りながら意見交換を行っている。管理者は、他事業所の運営推進会議委員になっており、会議に参加や交流を行い、サービスの質の向上に努めている。			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	希望や訴え、不安等に耳を傾けている。どう対応していくのかを伝えていくことで安心してもらえるよう努めている。本人様からの聞き取りが難しい場合には家族様からの情報を元に本人様が困っているであろうポイント等を見つけ出し、安心できる環境を作れるよう努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の思いや困っていることや要望を詳しく聞いている。環境が変わる為、不安を感じている家族様も多く、要望にどう対応していくのかを伝えることで少しでも不安を減らせるように努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ユニット内の雰囲気を感じてもらう為、ユニット内の見学やGHでの生活の流れ等を伝えている。本人様と家族様の状況を把握し意向を確認しながら適切な支援を提供できるように努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	9人という少人数であることから入居者様、職員が顔なじみの関係である。その為日々の関わりの中から本人の思いを尊重しつつ、家事等一緒に行うことで暮らしを共にしている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や受診時には日頃の様子を伝えるだけでなく、自宅での様子やこれまでの生活歴を聞くことで家族様と共に本人様を支える為の情報を共有している。また日常の様子を写真と文章で家族様へお渡ししている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの関係が途切れないよう居室でゆっくり話せるよう環境作りに努めたり、電話でのやりとりが出来るように支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を観察しお互いが過ごしやすいよう座席など考慮している。また、孤立しやすい方には職員が関わり交流ができるように橋渡しをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も家族様から相談があれば必要に応じ相談や支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から入居者様の思いや意向を聞き把握するよう努めている。また、困難な場合は生活歴や家族様から話を聞き参考にしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	申し込み時や入居後に入居者様や家族様に生活歴を聞き取ることで、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の様子を観察し記録に残すことで現状の把握に努めている。また、変化が生じれば些細な事でも職員間で情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様や家族様の意向を聞き定期的にカンファレンスを行いスタッフ間で意見交換、検討し、その時々々の現状に応じた介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、実施したケア内容やその後の様子、気づきを介護記録に残している。また個々の注意点等は職員間で情報共有し、日々のケアに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>以前はボランティアの受け入れをしていたが、コロナ感染予防の為、今現在は受け入れを行っていない。季節のイベント時には行事を縮小して入居者様が楽しめるよう支援している。</p>		
29	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居者様や家族様の希望を大切に、受診時は日頃の様子や体調の変化等、医師へ報告相談している。必要に応じて職員も同席し、直接話す機会を設けながらかかりつけ医との連携図っている。</p>		
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>医療連携をとっている同一敷地内の看護師と24時間相談体制がとれている為、日々の様子や気づいたこと、不安なこと等を報告相談している。</p>		
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院した際、介護サマリーを渡している。入院までの経過、病歴、内服薬など詳しく記入し情報提供している。病院関係者からも、状況や検査結果等を聞き、情報共有し退院後の適切なケアに努めている。</p>		
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した場合における対応の指針を定め、家族様より同意をもらっているが、状況変化があるごとに本人様や家族様の思いなどを確認している。今後について十分に話し合いを持つようしており医療関係者と連携し支援している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の小さな変化や不安な時など看護師に報告相談している。また急変時の対応等に関しては定期的に職員間で話し合ったり、研修やシュミレーションを通していざという時に対応できるようにしている。		
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行い、地域の方々にも参加して頂いている。実際に誘導をお願いする等実践に努めている。また職員は通報訓練や放水訓練、設備説明なども行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりの人格を損なわないよう尊重し声がけしたり、プライバシーに配慮し、個々の生活歴に合った支援を行うように心掛けている。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が自分の思いを主張しやすい雰囲気づくりに努めている。定期的に入居者様とコミュニケーションを図り、希望を聞けるようにしている。		
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や就寝時間等、その方の生活スタイルに合わせて支援している。居室に思い出のものやなじみのものを置いてその人らしい生活空間を作っている。		
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容が一人で難しい方は職員が介助している。また、髪切りの要望など聞き、床屋も定期的実施している。		
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在は外部宅配を利用しているが、定期的に食べたい物を聞きながら献立作成し、色彩を考えて食欲が出るよう盛り付けを考えてる。食後の食器拭きは職員と一緒にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態や量は栄養バランスを考慮しながらその方に合ったものを提供している。また、食事量・水分量は温度版に記録し、すぐに分かるようにしている		
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけを行っている。本人の力に合わせ洗口液の活用や磨き残しがないかの確認、また介助もやっている。		
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時での声かけを行い、トイレ誘導をしている。排泄表に記録をすることで排泄パターンの把握や排泄の自立に向けて職員がどう関わっていくかの判断材料としている。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めに取るように声かけしたり乳製品を多く取り入れたりしている。毎朝のゴミ捨て時には運動と気分転換を兼ねて散歩も行っている。		
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日を決めずに受診のタイミングに合わせて入浴したり、汚染時にはシャワー浴をし清潔を保っている。時には気分を変えて入浴剤を使用し楽しんでもらえるよう工夫している。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	落ち着いた気分で休めるよう和室を利用して休息してもらったり、朝はゆっくり起きたいという方には朝食時間をずらして休んでもらったりと、一人ひとりのペースを尊重している。		
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の飲み合わせによる禁食がある為、全スタッフに周知なるよう配慮している。また禁食のある方には代替品にて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>テーブル拭き、茶碗洗いなど軽作業をしてもらえるよう声がけ依頼し役割作りを行っている。気分転換を兼ねてゴミ捨て時の散歩や、気候をみてテラスでお茶会などを行っている。</p>		
48	(18)	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>コロナ禍の為なかなか外出できないが、ドライブに行ったり、屋外のテラスでレクリエーションを実施している。コロナ禍前は季節によって花見や芋煮会、スーパーに買い物に行っていた。また家族様との交流も大事にし一緒に外食なども行っていた。</p>		
49		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>コロナ禍以前は買い物の機会を設け、好きなものを購入したりしていた。一人ひとりの希望に合わせ支援している。</p>		
50		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>要望に応じて家族様との電話対応を行ったり、手紙や年賀状など職員と一緒にしている。</p>		
51	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節感のある装飾があり、居室やデイルームに温度湿度計を置き、快適に過ごせるよう温度管理を行っている。また木のぬくもりを感じられる造りの為、生活感を感じられるような家庭的な雰囲気を大切にしている。</p>		
52		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>居心地のよい共有空間を過ごせるよう座席に配慮しながらデイルームや和室だけでなく、一人ひとりが好きな場所で好きな時間を過ごせるような環境作りを行っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人から訴えがある場合や必要なものなどは家族にその旨を伝え、家で使用していた物を持ってきてもらっている。本人が落ち着いて生活できるよう考慮し、置くようにしている。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事を続けられるように危険性がない様事前に確認したり、自分で出来るよう環境作りに努めている。		